

行動計画フォローアップ会合で示された 主な取組と課題・要望（概要版）

行動計画フォローアップ会合において、出席した中小企業・小規模事業者及び支援機関から示された主な取組や提起された主な課題、要望について、行動計画における4つの行動、「施策の効果的な実行に向けて」、行動計画にはない重要課題に分けて、それぞれ整理。

行動1 : 地域に眠るリソースを最大限に活用・結集・ブランド化する

行動2 : 中小企業の新陳代謝を活発にする

行動3 : 下請構造から脱却し、自ら積極的に成長分野へ参入する

行動4 : 海外に打って出る

効果的な実行 : 中小企業・小規模事業者施策の効果的な実行に向けて

他の重要課題 : 震災対応

平成25年12月
中小企業庁

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- おやき業界が連携して、信州おやき協議会ができ、ブランド化が進むことで知名度が高まり、販売が拡大した。ただ、市場拡大によって、機械化により大量生産を行う事業者が参入したことで、手作りで生産をしている事業者の販路が奪われ、二極化が進んだ。(長野市)
- 支援機関からアドバイスを聞いて、試作開発の補助金を頂戴し、機械の開発をすると共に、人材育成にも取り組んだ。これにより、雇用も生まれ、開発・人材育成・スキルアップ等の競争が生まれ、チャンスが来たと非常に期待している。(那覇市)
- 地域の7つの農家で連携して、農業の6次産業化を実践している。みかん加工が売上の7割。加工することで年中売れるという強みがあるので、伸ばしていきたい。(和歌山市)
- 育児や介護は依然女性の大きな負担。当社では女性パートも有給休暇の全日消化、勤務時間も柔軟に対応。今年出産したパートが雇用保険から育児休暇手当をもらい、休暇中。この手当の存在を知らない会社・女性が多いのが残念。(豊橋市)
- 地域の空き家を探し、インターネットでの情報提供及び地元不動産業者と連携した物件紹介で、4年間で30件程度の創業に繋がった。(長野市)

【支援機関による主な取組事例】

- 地域のリソースに気づいていない事業者もあり、その地域では当たり前となっていることでも、世に広めて地域活性化のビジネスチャンスに繋げていきたい。（長野市）
- 蔵王にある資源を有効に生かしたいと思っており、町で使える商品券が利用できる店を増やしている。農水省から助成金を活用して資源循環型の“蔵王爽清牛”というブランド牛を進めている。また、商工会宮城県連からのビジネス支援小規模企業広域活性化事業という助成を活用し、地元農家が儲かるように取組を進めている。（白石市）
- 正しい会計知識が中小企業の武器になるよう、中小会計要領の啓蒙や、情報提供等を進めている。（鳥取市）
- 支援機関も多くの国の施策について、良く知らない現状である。情報収集し、勉強会に参加するなど、お客様に提案できるよう努めている。（那覇市）
- 地域の商店街と昨年から会議を行っており、空き店舗対策やまちづくり会社の設立・活用等について検討している。（那覇市）
- 人材確保について、地元の高校や大学と連携して、学内での企業説明会等を実施している。（和歌山市）

2. 提起された主な課題・要望

- 小規模事業者等の事業展開へのきめ細やかな支援や国内外の販路開拓の促進
- 地域住民の需要に応じた商店街等の活性化
- 新分野進出や産学連携等に対する支援体制強化
- 地域の経営者の質の向上に向けた研修体制等の強化
- 女性や若者、高齢者等の人材能力活用促進

<課題・要望の具体例>

- ・ 新しい取引先を探したいが情報が入ってこない。マッチング・情報提供をお願いしたい。(白石市)
- ・ 商店街に人が集まるためには、観光地との連携、イベントの開催、地域と密着した需要の掘り起こし、といった方法が考えられる。(長野市)
- ・ 町全体のマネジメントが課題であり、商売人だけでなく、まちづくりの人材が必要。(大分市)
- ・ 新分野進出や産学連携等で地域の活性化を図っていきたいが、目先何をすればいいか分からない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。(豊橋市)
- ・ 企業の経営を左右するのは、経営者の質。旭川にある中小企業大学校で勉強したことがあり大変役に立ったが、旭川まで通う時間を工面するのは大変。地方で出前セミナーのようなものがあれば良いと思う。(室蘭市)
- ・ 女性が仕事を続ける上で、結婚、出産、子育て、介護が大きな課題となっている。(長野市)
- ・ 社会保険料の負担が苦しい。これでは雇用も進まない。社会保障ができず、人材が集まらない企業も多い。(室蘭市)
- ・ ハローワークや人脈を使って採用しようとしているが、良い人に巡り会えない。マッチング支援があれば嬉しい。(鳥取市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- 個人事業から始めたが、認知度を上げるのに苦しい時間が長く続いた。カタログ配布やサンプル提供などをして、ユーザー1人1人の需要も見えてきて、次のステージに向けて努力のしがいのあるところ。(旭川市)
- 若い世代に承継する時期が来ている。若手社員にも業務の責任を持たせて、早い段階で1人前になってもらえるようにしている。(室蘭市)
- 古い体質が抜けず邪魔をしていくことがあるが、半ば強制的に改革を進めていくと、社内がきれいになるだけでなく売上等の数字にも表れてくるようになった。(高岡市)
- 時代に合わせて事業体系を変えていくべきだと考えている。現在は10年前から6次産業を行っており、当事業に注力している。(鹿児島市)

【支援機関による主な取組事例】

- 創業するのはスタート地点であって、その後が大事であり、事業を継続させるためには税務や実務面に加えスピリットの部分が重要だということを、創業前に何回かの講義に分けて伝えている。（鹿児島市）
- 新規開業について、担保・保証に頼れないため、金融機関は弱い部分。しかし、日本政策金融公庫や信用保証協会などと連携し、前向きに取り組み始めた。（和歌山市）
- 創業・次世代経営者への支援として、幅広い知識・ノウハウの習得サポート等を目的とした次世代経営者クラブを創設。（いわき市）
- 衰退ステージでは、致命傷を防ぐため、買収や早期の廃業を勧める場合もある。（長野市）
- 事業承継について後継者塾を開催している。目標として、経営者自身で計画を作れるようにすること。（今治市）

2. 提起された主な課題・要望

- 創業間もない企業に対するハンズオンでのきめ細やかな支援、支援体制の強化
- 女性・若者など多様な人材による事業の創出・展開の促進
- 地域における創業支援体制の強化
- 事業承継や再チャレンジの一層の促進

<課題・要望の具体例>

- ・創業塾を開催し、約1割が創業する成果があったが、平成23年に事業仕分けで廃止になった。創業塾の再開を切望している。(旭川市)
- ・創業支援が気になっている。これから創業したい人を支援しないといけない。勉強会とか育てる仕組みをして、女性の働きやすい環境を作らないといけない。(今治市)
- ・創業は意外とすんなりできたが、その後の継続や発展が大変難しく感じている。既存の事業を強化しつつ、新事業を発掘することが大事だと思うが、できていない。使える補助金もなく、困っている。創業後の、成長ステージに応じた支援や相談体制があると良い。(鳥取市)
- ・起業時や、雇用時の支援メニューは多々あるように思うが、起業後、存続できるようなサポートがほしい。(室蘭市)
- ・新しい取組を行うためには、新たな人材が必要であり、そうした人材の育成が必要であると実感。(長野市)
- ・地方は働き口が少なく、若者が県外に出てしまっている。後継者を確保するため、魅力ある、活気あるまちづくりをする必要がある。(和歌山市)
- ・事業承継に係る税制について、小規模事業者にとって魅力あるようにして頂きたい。(那覇市)
- ・事業承継税制は「従業員の8割保持」という条件が厳しすぎる。その他にも足かせが多すぎるので、改善してほしい。(和歌山市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- 下請け構造からの脱却について、国からの補助金を受け、各事業者の強みの技術を持ち合って、連携して品質向上とコスト削減に取り組んでいる。(長野市)
- 自社の強みは何かと考え、丹後の糸と機械金属の技術を合わせて、新素材の開発に取り組み、ものづくり補助金の採択を受けた。(京丹後市)
- 知見を広げるために様々な勉強会に参加するようになり、現在は納豆を使ったサプリメント・健康補助食品の開発研究、また納豆菌で作った農業資材の開発・販売といった新事業を展開している。(鹿児島市)
- 客のニーズが多様化し、ネット販売の普及や、車社会が進んだことで、地元以外からも客を呼び込めるようになった。一方で、ドラッグストアの進出、インターネットの台頭等で卸業は難しくなったため、登別の温泉などで対面販売等をスタートさせた。(室蘭市)
- 事業転換を図る際、大変苦労したが、ITを導入することで状況が変わった。客が欲しがる商品をいかに供給するかを第一に考え、今後も努力していきたい。(大分市)
- プラモデルのマーケットは縮小傾向。また、中国産が大部分。プラスチックの金型は日本産業の米であると言われながらも、今は殆ど壊滅した状態。そんな中で他の国に対抗していくため、技術開発等を行っている。マーケットの開拓においても、キャラクタービジネスへの参入、県庁とのコラボを行っている。ただのプラスチックの塊ではなく、立体情報物として売り出していきたい。(豊橋市)

【支援機関による主な取組事例】

- 販売店の高齢化、大手量販店の増加により、卸としてより小売りに注力。商工会議所の協力を得て、ネット市場への出店を果たした。（高岡市）
- 商工会職員の提案が出発点となり、電気を通す布の開発に成功した。経済産業省重点経済政策の介護の分野で取り上げられ、「見守りシステム」として期待されている。（豊橋市）
- 補助金関係のところでは、繋ぎ役として頑張っている。ものづくり補助金で120件、創業補助金で30件ほど申請した。国の施策を繋ぐ役を頑張っていきたい。（大津市）
- 小さい企業は単独では難しいので、いくつかの企業でまとまって販路開拓をする場を設けるなどの取り組みをしている。（高知市）
- 中小企業が補助金や一括交付金を活用する際に、補助金の下りる前までの繋ぎ融資も県内金融機関として制度化し、支援している。（那覇市）

2. 提起された主な課題・要望

- 成長分野での技術開発や技術を活かしたサービス業の促進
- 小規模事業者等の成長分野への進出促進
- 顔の見える信頼関係をベースにしたビジネスモデルの再構築

<課題・要望の具体例>

- ・現在の下請け構造からの脱却を目指しているが、物を作る事は出来ても、流通のノウハウはないので、支援してほしい。(豊橋市)
- ・ものづくり補助金では、小規模事業者向けの支援を検討してほしい。また、商業・サービス業にも設備投資に対する支援をしてほしい。(鳥取市)
- ・業態がサービス業であっても、ものづくりに関わる事業については適用されるようにしてほしい。(白石市)
- ・サポインの対象範囲を拡充して欲しい(和歌山市、高岡市)
- ・自分たちの強みを、どう生かしていけるかが分からない。持っている強みを開拓し、また成長分野への参入を繋いでくれるような、コーディネートがほしい。(京丹後市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- 中小零細が国際展開するには、採算の観点から個社ではハードルが高いため、複数の業者で連携し負担を軽減して行っていきたい。(長野市)
- 昨年愛知県の援助を受け、国際航空宇宙展へ出展。初めて外国と商談を行い、英語でもプレゼンを行った。取引成立には結びつかなかったが、課題が明確になった。(豊橋市)
- 近隣諸国では北海道は高い評価を受けている。国の力も借りて、輸出のできる小さな商社を設置して、北海道発アジア・世界行きを作っていきたい。(旭川市)
- 展示会を行ったが、なかなか高級層との繋がりを得ることができない状況。そこでプロデューサーをむかえ、高級ホテルなどをターゲットにアプローチしている。(今治市)

【支援機関による主な取組事例】

- 商工会議所のジャパンブランドに参加している。初めに商工会議所が費用を負担し、それが後で請求される仕組みなので、最初の費用の負担が軽くなってありがたい。商工会議所が資料を作成してくれるので事務の負担が少ないのも良い。(旭川市)
- 事業者から商談会に出展するまでが分かりにくいとの指摘がある。また、商談会後のフォローアップの相談も多い。出口のサポート充実について、意見を受けている。(今治市)
- 食品・食材を中心に海外に対してブランド化して売り込むために、3年前から商談会を実施し、毎年、実績を上げている。(那覇市)

2. 提起された主な課題・要望

- 海外にチャレンジする際のきめ細やかな支援
- 海外進出先での支援体制の強化

＜課題・要望の具体例＞

- 海外だとタイムリーな交渉、予期せぬ商談に語学不足、知識不足で対応できない。プロの商社マンがブースを巡回してくれると助かる。(高岡市)
- 零細企業が海外に出るのが大変と実感。出た後の営業活動が続かない。一社だけでなく地域の異業種も出せる制度がほしい。(旭川市)
- 海外へ出ると、一気に広がるため、日本と同じような感覚で行くと戸惑いを感じてしまう。中小企業向けの総合商社等があれば、ありがたい。(鹿児島市)
- 海外展開に関し実際に苦労したことは、法務・労務・知財。現地の法律の適用を受けるところ、喫緊の課題と感じている。(鹿児島市)
- CマークやULマークといったマークを取得しないと、海外では売れない。これを取得するまでに費用が数百万円かかる。この負担が減るような仕組みを作してほしい。(和歌山市)
- 旭川は内陸でシンガポールの現地法人には神戸を経由して出している。旭川から神戸への物流費が高額。地域にまたがると、国際競争力を得るのは難しい。(旭川市)

【支援情報の広報の強化】

- 産学官金の情報が集約されているポータルサイトがあるとありがたい。業種や活動地域等を登録することで、より使いやすくなると思う。(遠野市)
- 国や県の助成事業が中小企業者には認知されていないことが多い。(高知市)
- なかなか国・県の施策などの情報が届きにくい。身近に活用した人がいたら、参考になるので、そうした環境があればいい。(大津市)
- 認定支援機関の存在があまり知られていない。認定支援機関のより良い周知方法を考えてほしい。(旭川市)

【支援制度の使い勝手の向上】

- 補助金申請の、書類を簡素化してほしい。手軽に使えるようになれば、新しいチャレンジにも意欲が湧く。(和歌山市)
- 補助金が、やる気のある小規模事業者に行き届くように、要件の緩和等してほしい。(鳥取市)
- 助成金の受付期間が短くて申請が間に合わないことも問題。(高知市)
- 補助金の申請期間が短すぎる。せめて認定支援機関には、事前に情報をもらえれば事業者にお伝えして相談ができる。(白石市)

【経営支援体制の再構築】

- 新分野進出や産学連携等で地域の活性化を図っていききたいが、目先何をすればいいかわからない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。（豊橋市）
- 基礎的なところを担う商工会では、昨今の高度化する経営課題への対応が難しくなっている。商工会としては、税理士、金融機関等の高度な知識を持っている支援機関へとつなぐ役割を果たしていきたい。（高岡市）
- 認定支援機関向けの研修について、地方では機会がまだ少ない。もっと研修の機会を増やしてほしい。（京丹後市）
- 市町村も創業支援に積極的。今後、市町村とも連携するにあたり、国の支援があればありがたい。（鳥取市）
- 土地柄もあってか、女性の支援者がいない。女性でなければ分からないこともあるので、女性の支援者・アドバイザーを育成してほしい。（今治市）

【その他】

- 商品開発などに時間を要するため、事業が1年で切れてしまっただけでは、実績が出ない。長期的な支援をお願いしたい。（鳥取市）
- 県から補助金を受けることになってもお金をもらうのは事業が終わる1年後。この間の資金繰りが厳しい。（高知市）
- 補助金の不採用となった場合に足りなかった点のフィードバックがあると助かる。（室蘭市）

【復興支援】

- 見ず知らずの土地で新たに商売に取り組むのは難しいので、地域コミュニティ形成のための仮の町を早急に作っていただき、そのような場に商店や商店街なりを作っていくのが先決。(いわき市)
- 県内の事業所の再開率は73%と、足踏み状態で、まちづくりへの動きが進んでいない。長期にわたって復興に取り組むことが必要。(遠野市)

【風評被害】

- 市の方では観光は7割まで回復していると言われているが、実感としては4割も戻っていない。そんな中、消費税や電気代が上がるのは厳しい状況。(いわき市)
- 1年経ってから観光客が戻ってきているが、被災地支援という形で来られている方がほとんどで本来の意味での観光客は戻っていない。(白石市)
- 販売奨励品ということで食品を東京都に納めた場合、何パーセントか還元するというすばらしい制度があった。放射能検査や手続きをしているのに、福島県ということで避けられている。食品を買ってもらえる方策をしていただきたい。(いわき市)

【震災特需】

- 震災後は、被災地域での需要や復興支援の想いによる取引開始等があり売上が一時的に伸びていたが、この特需が終わってみると、震災前の売上にまだ戻っていない。(白石市)

【グループ補助金】

- 地震により、工場は建物が半壊し今もそのままの状況で、機械も壊れた。グループ補助金を検討していたが、減価償却が済む前に将来立て替えることができないと言われたため利用を諦めた。(白石市)